

厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）「乳幼児から思春期まで一貫した子どもの健康管理のための母子健康手帳の活用に関する研究（H16-子ども-003）」（主任研究者 小林正子）分担研究報告書

分担研究課題 「母子健康手帳に載せる育児情報に関する科学的根拠の検討：小児科医・産科医・母親・学生等の意見収集・分析」

その2 「母子健康手帳に関する医療関係者と母親への質問紙調査による研究」

分担研究者 大西鐘壽（香川医科大学 名誉教授 高松短期大学 保育学科教授）

研究要旨

目的：現行の母子健康手帳に記載されている内容に関する医療従事者、特に小児科医師及び当事者である母親の意向調査を行い、母子健康手帳に記載されている内容の改善すべき事項を明らかにする。

対象及び方法：昨年度の研究で作成した調査票を使用した。調査票は平成15年9月から11月に配布し、平成15年度末までに回収された調査票について検討を行った。調査票の配布は愛知県、香川県、神奈川県、及び岡山市、浜松市、松江市、藤岡市、松山市などの地域の開業医師、病院勤務医師などの医療関係者及び主として小児科医師と育児サークルを通じて母親などに記入を依頼し、回収した。

研究結果：医療関係者については小児科医師266名と助産師220名と看護師（助産師と記載があったものを除く）556名の3群について比較検討した。「母子健康手帳が乳幼児健診などで有用か」については、いずれの群も極めて高い有用性を示した。小児科医師で98%、助産師、看護師ともに93%、中でも小児科医師の有用率が高値であった。「予防接種などの各項目で具体的に役立った」事項のうち「母子健康手帳が予防接種に役立った」とする割合は小児科医師で92%と小児科医師で非常に高率であった。「母子健康手帳が発育具合の確認に役立った」割合が小児科医師87%、「手帳のサイズは大きいものを希望する」率が小児科医師で38%、「エコーなどの写真を貼る欄」について、小児科医師では15%、助産師で43%、「重症新生児の記載欄」については、小児科医師で43%と高く、助産師、看護師と差を認めた。

母親への調査について、今年度は1591名を、子ども（第1子）の年齢ごと（0-2歳、3-5歳、6-12歳）の3群に層別化し、意向を検討し、年齢毎の異なる傾向のあるものを抽出した。

考案：今回の小児科医師での検討では「健診」の項目においては98%で有用という結果を得た。「予防接種」で92%、「発育具合」で87%の項目でともに高い有用性を示した。このことは、現行の母子健康手帳の形態が少なくともこれらの項目についてはかなり高い完成度を持ったツールと小児科医師に評価されていることを示した。ただし、記載内容

での不足する点について、「ある」とした小児科医師の率は34%で、約1/3の小児科医師にとって現行の母子健康手帳がさらに改善の余地ありとしていた。今回の調査で明らかとなったのは、特に「重症新生児の記載欄」についての記載欄不足が多く指摘された。

母親について、今回検討した項目の中で、子どもの年齢別に異なる傾向が認められた項目は、「育児に母子手帳が役立ったか」、「手帳の記載内容改訂に際しての希望」に際して「アトピー性皮膚炎について」の記載「赤ちゃんへの与薬法」「授乳中の母親の薬」、「育児に母子手帳は役立ったか」の項目の中の「予防接種」について、「育児について感じる事」では「楽しい」「母親の負担が大」の項目であった。各年齢群ごとの適切な意向を母子健康手帳に反映させる必要を認めた。「育児に母子手帳が役に立ったか」という答えに対して全体で約9割が肯定的な回答で、かつ0-2歳の乳幼児を持つ母親では92%について母子健康手帳が役立つツールであるということと、子どもの年齢の上昇と共にその役割は低下するもののその有用性は高く評価されていることは注目すべき点であった。

研究協力者：

河田興、岡田仁、伊藤進（香川大学医学部小児科講座）

三木崇範（香川大学医学部神経機能形態学）

戸莉創（名古屋市立大学医学部小児科教室）

杉浦壽康（愛知県小児科医会会長）

犬飼和久（浜松市小児科）

石井広重（浜松市産科婦人科）

根岸和子（群馬県小児科）

渡辺明彦（神奈川県小児科）

山内芳忠（国立病院岡山医療センター小児科）

基常日出明（松江市小児科）

瀬尾智子（日本母乳の会）

志田紀子、吾妻雅子（育児カレッジ）

大西喜久子（香川大学医学部医師会）

A. 研究目的

現行の母子健康手帳に記載されている内容に関する医療従事者、特に小児科医師及び当事者である母親の意向調査を行い、母子健康手帳に記載されている内容の改善すべき事項を明らかにする。母子健康手帳について、多数の小児科医師に対する意向調査はされておらず、特に他の職種との比較を行うことで、より明確な小児科医師の意向を正確に把握することが可能である。また、母親の意向については、多人数の調査においては調査項目が限定され、少数の調査においては、調査項目が多様になるものの、子どもの年齢層が限定された健診時期に限定した調査しか行われていない。

そこで今回は分担研究者が解析を行える範囲で研究協力者の援助を得て、可能な限り多数の小児科医師を含む医療従事者と母親への協力を依頼し、調査票による意向調査を行い、その母子健康手帳に対する要望について詳細な検討解析を行った。

B. 対象と方法

昨年度の研究で別紙に示す医療者に対する調査票及び母親に対する調査票を作成し、本研究においても使用した。母子健康手帳の記載内容について小児科医師、助産師、看護師などの医療関係者がいかなる意見を持っているか、特に今回は小児科医師の意見が明確になるように解析を行った。母親については子どもの年齢が母子健康手帳記載内容変更への意向へ及ぼす可能性の高い項目について検討した。

調査票は平成 15 年 9 月から 11 月に配布し、平成 15 年度末までに回収された調査票

について検討を行った。調査票の配布は名古屋市立大学大学院医学研究科・先天異常・新生児・小児医学分野・同門会、愛知県小児科医会、香川大学医学部小児科関連病院、香川県小児科会、香川県助産師会、香川県母乳育児のつどい、育児カレッジ、神奈川県小児科医会、及び岡山市、浜松市、松江市、藤岡市、松山市などの地域の開業医師、病院勤務医師などの医療関係者及び主として小児科医師を通じて母親に記入を依頼し、回収した。

調査票を医療関係者と母親に分けて解析し、記載した。

C. 研究結果

1) 医療関係者について

小児科医師と助産師と看護師（助産師と記載があったものを除く）の 3 群について比較検討した。異なる 2 群間の検討はカイ二乗検定を行い、5%未満を有意と判定した。紙面の都合上項目の一部について限定して解析を行った。

問 1 医療従事者 1187 名の調査票のうち職種については小児科医師 266 名、助産師 220 名、助産師と記載があったものを除く看護師（以下看護師）556 名であった。その他職種については解析対象数が少数であり、十分に比較検討可能なこの 3 群について以下の検討を行った。

問 2 「母子健康手帳の改善の希望」は小児科医師で 61%、助産師で 55%、看護師で 29%と各群間に差を認め、小児科医師での改善希望が高値であった。

問 3 「母子健康手帳が乳幼児健診などで有用か」については、いずれの群も極めて

高い有用性を示した。小児科医師で 98%、助産師、看護師が共に 93%、中でも小児科医師の有用率が高値であった。

問 6 「予防接種などの各項目で具体的に役立った」事項（複数の回答選択可能）についてそれぞれ選択した調査票とその割合を示した。

問 6-1 「母子健康手帳が予防接種に役立った」とする割合は小児科医師で 92%、助産師で 45%、看護師で 66%と小児科医師で非常に高率であった。

問 6-2 「母子健康手帳が発育具合の確認に役立った」割合が小児科医師 87%、助産師 47%、看護師 42%でいずれも高率で特に小児科医師で高率であった。

問 6-3 「母子健康手帳が出産の様子について知るのに役立った」のは小児科医師で 70%、助産師で 53%、看護師で 30%と小児科医師で高率であった。

問 6-4 「母子健康手帳が妊娠中の様子について知るのに役立った」とした割合が小児科医師 27%、助産師 35%、看護師 17%と助産師が高率であった。

問 6-5 「母子健康手帳が母親の妊娠中の様子について知るのに役立った」とした割合が小児科医師 18%、助産師 27%、看護師 13%と助産師を除きいずれも少し低率であった。

問 9 「各月齢、年齢時の保護者、医療者の記載事項」について追加、削除の希望は、小児科医で 17%、助産師 10%、看護師 7%より高率であった。

問 10 「聴力スクリーニングの項目を加える」について、不要とする率が小児科医師で 11%で、助産師、看護師に比べ高率であった。

問 11 「手帳のサイズは大きいものを希望する」率が、小児科医師で 38%、助産師で 28%、看護師で 19%とそれぞれに差を認めた。

問 12 「母子手帳の分冊化について」は、助産師でその希望は 11%と低く、小児科医師は 15%、看護師 16%であった。

問 13 「母子手帳の名称の変更」については、全体に低いものの、助産師で 15%と高く、小児科医師 9%、看護師で 7%と差を認めた。

問 19 「妊娠から生後 1 ヶ月までの各記載欄の不足」について選択したものの割合を示した。

問 19-1 「妊娠中の所見」についての選択は小児科医師で 5%、助産師で 10%、看護師で 7%といずれも低かった。

問 19-2 「妊娠中の指導を書く欄」についての選択は助産師で 31%と高く、看護師 14%、小児科医師 5%であった。

問 19-3 「妊娠中の母体の状況」についてを選択した率はいずれも 11~13%で差を認めなかった。

問 19-4 「母体の意見を書く欄」については助産師で 23%と高く、小児科医師では 6%、看護師 7%と低率であった。

問 19-5 「エコーなどの写真を貼る欄」について、小児科医師では 15%、助産師で 43%、看護師で 39%と小児科医師で低率であった。

問 19-6 「出産時の所見を書く欄」については、小児科医師が 25%と比較的高く、助産師が 8%、看護師が 11%であった。

問 19-7 「新生児の様子を書く欄」についてが、小児科医師で 34%と高く、助産師、看護師が 17%と半数であった。

問 19-8 「1 ヶ月までの児の状態を書く欄」については、小児科医師で20%、助産師で14%、看護師で11%であった。

問 19-9 「重症新生児の記載欄」については、小児科医師で43%と高く、助産師、看護師がそれぞれ19%、17%と差を認めた。

問 21,22,23,24,25,26,27,28 はいずれも母乳哺育に関わる項目が、小児科医師より助産師が高率であった。

2) 母親について

問1 お子さんは何歳ですか（第一子について分類）

A: 0-2歳 (622名)、B: 3-5歳 (564名)、
C: 6-12歳 (405名)

であった。以下の項目についてこのA、B、Cの3群に層別化して検討を行った。

問6 育児に母子手帳は役立ちましたか
「とても」、「少し」を合せた割合は
(A92%、B88%、C85%)であった。

問7 育児に母子手帳は役立ちましたか
という設問で具体的な項目に肯定
した割合を示した。

問7-1 妊娠出産時に (A33%、B35%、
C37%)

各年齢層で約1/3の率であった。

問7-2 赤ちゃんの体重などの成長の記録
に関して (A75%、B81%、C72%)

いずれも高率であった。

問7-3 予防接種について (A48%、
B64%、C69%)

年齢層の増加と共にその割合は1/2から2/3
に上昇した。

問7-4 離乳食のことについて (A4%、
B4%、C4%)

いずれの群も低値であった。

問10 母子手帳の内容が変わるとしたら
どのように変わることを望みますか
という設問のそれぞれの内容に
ついて肯定した割合を示した。

問10-1 ページ数を増やして詳しく説明
して欲しい (A13%、B9%、
C11%)

問10-2 ページ数を減らして薄くして欲
しい (A10%、B10%、C11%)

この2項目はほぼ同数でそれぞれの群で約
10%であった。

問10-3 子育てについて具体的な情報が
欲しい (A34%、B29%、C30%)
と各群でほぼ同数であった。

問10-4 病気やケガの応急処置を載せて
欲しい (A56%、B61%、C58%)
各群とも60%位で高率に支持された。

問10-5 アトピーについての内容を載せ
て欲しい (A14%、B15%、
C18%)

子どもの年齢層が上昇するとその割合は上
昇した。

問10-6 予防接種の受け方を載せて欲し
い (A32%、B28%、C32%)
各群とも30%の希望があった。

問10-7 赤ちゃんに薬を与えるときの方
法について載せて欲しい
(A27%、B21%、C20%)

問10-8 授乳中の薬の使い方を載せて欲
しい (A32%、B29%、C25%)

この2項目は年齢層が上昇するとその割合
は低下した。

問10-9 父親のことを書く欄が欲しい
(A18%、B16%、C15%)

いずれも15-18%と少し低率であった。

問14 生後3ヶ月までの栄養について母乳栄養を選択した割合は(A51%、B41%、C45%)で混合栄養もしくは母乳栄養を選択した割合は(A87%、B86%、C86%)と高率であった。

問15 現在は小学校入学まで記録することになってますが、もっと先まで記録し自分の心身の健康に配慮するようにしたほうが良いと思いますか。いつの時期までかを選択した割合を示した。

今のままを選択(A56%、B49%、C48%)が約半数で一番多く、小学校卒業まで(A26%、B31%、C29%)、中学校卒業まで(A10%、B9%、C10%)高校卒業まで(A3%、B4%、C3%)であった。

問26 育児について感じていることで該当するものを選んでくださいという設問で選択肢を選んだ割合を示した。

問26-1 楽しい (A68%、B66%、C62%)と年齢の上昇と共に68%から62%に減少した。

問26-2 やりがいがある (A28%、B24%、C25%)

問26-3 不安 (A29%、B32%、C32%)

問26-4 孤独 (A6%、B9%、C9%)

問26-5 疲れる (A43%、B53%、C51%)

問26-6 責任重大 (A29%、B30%、C33%)

問26-7 社会から取り残されたような気がする (A9%、B10%、C12%)

問26-8 母親の負担が大 (A27%、B39%、C45%)

と年齢の上昇と共に27%から45%に増加した。

問26-9 つまらない (A0.4%、B0.7%、C0.5%)

といずれも低値だった。

問60 病院などへの質問欄のどの余白(スペース)がもっと欲しいですかという設問について選択された割合を示した。

問60-1 妊娠時 (A24%、B17%、C17%)

問60-2 乳児 (A38%、B36%、C37%)

問60-3 幼児 (A87%、B85%、C87%)

問60-4 予防接種 (A87%、B87%、C83%)

この2項目で高値であった。

問60-5 不要 (A75%、B67%、C72%)

D. 考察

1. 医療関係者の調査結果の考察

昨年度の分担研究課題「母子健康手帳に載せる育児情報に関する科学的根拠の検討：小児科医・産科医・母親・学生などの意見収集・分析」その2「母子健康手帳に関するアンケート調査による研究」において医療関係者については1008名の集計を行ったが、今回はその対象を1187名に広げて解析を行った。

昨年度の医療関係者における集計では、母子手帳の利用は健診(92%)、診察(91%)で役立つとしており、具体的には予防接種(66%)、発育具合(55%)に役立つとしていた。母子手帳のサイズに関しては大きいものを希望する人が26%で、43%が希望しないという回答であった。内容改定については改善の希望(45%)、どちらでもない(47%)で差が認められなかった。記載内容については不足する点については特に無く(80%)、各月齢の保護者と医療者の記載

内容について追加削除の希望は 10%であった。内容改訂に関しての希望は予防接種の受け方 (50%)、子育ての具体的な情報 (42%)、病気やケガの応急処置 (34%) が多かった。

子どもの権利条約については、赤ちゃんが母乳を飲む権利を母親に知らせる (54%)、90%以上の母親が母乳だけで赤ちゃんを育てられることを知らせる (51%)、生後 6 ヶ月間は果汁などの水分も必要ないと推奨していることを知らせる (34%)、母乳育児のための 10 か条を記載する (52%)、世界中の赤ちゃんが出生後 2 年間それ以上母乳で育てられるべき (23%)、母乳代用品の販売流通に関する国際基準で人工乳などの宣伝を規制する勧告を知らせる (24%) などについてそれぞれ () 内が同意の割合であった。

母乳育児の発育曲線の基準値の記載の必要性についてはどちらでもよいが 42%で、記載した方がよいが 35%であった。離乳の開始、完了などの基準記載した方がよい (58%)、1 歳 6 ヶ月健診で「母乳を飲んでますか」と聞く質問が不要 (58%) との回答が多かった。テレビ・ビデオ・テレビゲームの弊害については「警告」を発する必要がある (74%) であった。妊娠分娩などの記載事項の希望は超音波の写真を貼るスペース (33%)、重症新生児の記載欄 (22%) であった。

このような昨年度の集計の結果を踏まえ、今回は母子手帳を母子医療や母子保健などに使用している職種の中で、小児科医師を中心に検討を試みた。これまでの母子手帳に関する意向調査において、特に平成 14 年度から使用されている母子手帳の改正後、

このような調査はなされていない。また、以前に母子健康手帳について医師になされた調査の規模も 50 名程度にとどまっており、今回の小児科医師への意向調査により得られたデータの意義は高い。中でも、他職種との比較を同時に行えた点が評価する点である。これは、これまでの助産師、保健師などに関する検討についても比較的各地域に限定された小規模な検討、調査しか行われていないことに加え、小児科医師についての調査はさらに限定されたものであるためである。今回は分担研究者の協力が得られる範囲という選択バイアスがかかった対象であることは歪めないが、小児科医師数 266 名という比較的多数の小児科医師についての調査が施行出来た。さらに、今回はその調査だけにとどまらず、母子健康手帳で診療の現場で頻回に利用する職種である小児科医師の意向を汲み取り、次の世代の母子健康手帳へ還元し可及的速やかに反映させる必要があると認識して解析を行った。

実際、小児科診療における、健診や予防接種などの小児保健領域の業務において、現在の母子健康手帳が欠くべからざる存在で、有用かつ簡便であるのは疑う余地が無い。本研究の解析結果は図らずもその実態・実情を浮き彫りにしたものと理解・評価できる。

つまり、実際には昨年度の研究において、母子手帳の利用が健診で 92%、診察で 91%、具体的には予防接種(66%)、発育具合(56%)に役立つとされた。今回の小児科医師での検討では健診の項目においては実に 98%で有用という結果を得た。予防接種で 92%、発育具合で 87%の項目でともに高い有用性

を示した。このことは、現行の母子健康手帳の形態が少なくともこれらの項目についてはかなり高い完成度を持ったツールと小児科医師に評価されていることとなる。

さらに、記載内容での不足する点について、「ある」とした小児科医師の率は 34%と比較的高率であった。従って、小児科医師にとっても現行の母子健康手帳が改善の余地ありと認識している現状も同時に描出している。今回の調査で明らかとなったのは、特に小児科医師にとって出産時の所見や新生児の様子、1ヶ月までの児の状況、重症新生児の記載欄についての記載欄の不足が多く指摘された。平成 14 年の新しい母子健康手帳の改正時の解説をみても、その記載の重点が出生前後や特に 1ヶ月までの新生児項目に焦点が当てられていないことは明らかで、新生児に接する機会の多い、小児科医師にとっては助産師などと比較してもその時期の記載に苦勞している形跡がうかがわれた。さらに小児科医師では大きな母子手帳の希望が 38%と比較的高く、これも特に出生時や新生児期の重症児についての記載欄が不足していることが一つの要因と考えられる。

実際、新生児集中治療室に入院するような重症新生児においてその新生児期の記録は診療録以外に母子健康手帳を除けば情報はほぼ皆無となる。胎児期から連続する子どもの記録として新生児期の情報を手帳に十分盛り込む方法を考慮すべきである。

2. 母親の調査結果の考察

昨年度の研究において、母親については 1541 名の検討を行った。今年度は 1591 名について子どもの年齢ごとの検討を行った。

昨年度の検討では母子健康手帳の利用に関する現状について、母子健康手帳を受け取った際に 85%が一通り目を通し、ほぼ全員が所持し、医療機関受診時には 72%が持っていった。55%が育児の参考に使用して、利用していた。育児の参考に母子健康手帳を使用する際には、具体的には成長の記録 (64%) として利用している人が最も多かった。その他、妊娠出産時 (33%) や予防接種 (38%) が多かった。離乳食の事に関しては役立つとしたものが 2.3%で極めて少数であった。離乳の内容記載の希望は 58%であった。

母子健康手帳に関する母親の希望に関して、手帳のサイズに関しては大きいものを希望する人が 16%ある一方で、残りの人が大きいサイズを希望しないという回答であった。

育児の具体的な指針として充分かという問に対して肯定的な反応が 76%と高率であり信頼する育児情報源であることを伺わせた。

手帳の記載内容改訂に際しての希望は、病気やケガの応急処置 (58%)、具体的な予防接種の受け方 (32%)、子育ての具体的な情報 (31%)、授乳中の薬の使い方 (27%)、赤ちゃんへの薬の与え方 (23%) が多い事項であった。発育記録や予防接種歴、健康状態を記録するばかりでなく、よりきめ細かな健康情報も盛り込んだ手帳が必要とされていた。

今年度の検討では、昨年度の検討がより普遍的な意向調査となっているかの確認を目的に、子ども (第 1 子) の年齢ごとに 3 群に層別化し、その意向を検討した。具体的には A: 0-2 歳 (622 名)、B: 3-5 歳 (564

名)、C:6-12歳(405名)であった。

問1にみられるように対象の第一子の年齢は0歳が一番多く、比較的若い年齢層の調査であることと共に、問14にみられるように生後3ヶ月までの栄養について、母乳栄養率が約5割、混合栄養を含めると約9割が母乳栄養であり、母乳栄養率が高率な集団に対する意向調査であったと考えられる。母乳栄養率に関して層別化したA、B、C3群でその差は認めなかった。

今回検討した問6、問7、問10、問26、問60項目の中で、子どもの年齢別に一定の傾向が認められた項目は、問6 育児に母子手帳が役立ったか、問10-5.7.8 手帳の記載内容改訂に際しての希望に際して、アトピー性皮膚炎についての記載、赤ちゃんへの与薬法、授乳中の母親の薬、問7の育児に母子手帳は役立ったかの項目の中の7-3 予防接種について、問26 育児について感じることで、26-1 楽しい、26-8 母親の負担が大の項目であった。

当然のことながら、子どもの成長と共に母親の育児に関するニーズは変化する。しかし、問6にみられる育児に母子手帳が役に立ったかという答えに対して全体で約9割が肯定的な回答で、かつ0-2歳の子どもが若い年齢層では92%について母子健康手帳が役立つツールであるということと、年齢層の上昇と共にその役割は低下するもののその有用性は高く評価されていることは注目すべき点である。問10-7,8にみられる赤ちゃんへの与薬、授乳中の母への薬の投与に関する情報は特に0-2歳の年齢層では3割の希望があり、母親の関心の高い事項であり、かつ母親へ適切な情報が届きにくい内容であり、社会的な情報提供の方法

についてさらに議論が必要であると考えられる。

問10-5 アトピー性皮膚炎に関する記載では子どもの年齢の上昇と共にその記載の希望は上昇し、年齢ごとに対するニーズを適切に母子健康手帳に表記する難しい点を示しているかもしれない。スキンケアに関する母子健康手帳への記載の適否を含め、この点は改正時にはさらに議論すべき点である。問7-3 母子健康手帳が予防接種に関して役立ったとする率は0-2歳で約5割にとどまっており、この点も母子健康手帳での記載を考慮すべき点になるだろう。0歳児で接種するであろう三種混合、BCG、ポリオについて地域ごとのスケジュールに合わせた記載内容の充実が必要になるであろう。

問26 育児のことに感じるものの項目については、子どもの年齢の上昇と共に「母親の負担が大」が増加し、逆に母親が「楽しい」と感じる割合が低下することがどのような意味を持つかについては十分な考察は行えないが興味深い回答である。

以上今年度の解析結果に基づいて考案を行った。意向調査においての宿命である選択バイアスを小さくする目的で、小児科医師においては他職種(助産師、看護師)との比較、母親については年齢による層別化を試み、比較的多数の回答から興味深い結果を得ることが出来た。

D. 研究発表

- ①河田興, 大西鐘壽, 小林正子. 母子健康手帳の活用に関する研究—医療者への母子健康手帳に関するアンケート調査による研究—. 第51回日本小児保健学会. 2004年10月; 盛岡. 講演集: 586-587.

- ②河田興，大西鐘壽，小林正子．母子健康手帳の活用に関する研究—母親への母子健康手帳に関するアンケート調査による研究—．第51回日本小児保健学会．2004年10月；盛岡．講演集：588-589．

謝辞

本研究にご協力いただいた多くの方々に感謝する。

本研究のまとめの一部は分担研究者の事情により主に香川大学河田が担当した。従っ

て本研究の結果と解析において分担研究者の意向とは大きく異なる点が多数あることをお断りする。

「母子健康手帳（母子手帳と略す）」に関する母親へのアンケート用紙

該当する番号に○印を付けて（ ）にご記入下さい。 記入月日 _____ 年 月 日

一般的なこと（以下の回答はきょうだいがいる場合は第一子について記載してください）

1. お子さんは何歳ですか（乳児の場合は月齢を付して記載して下さい）
1（ ）歳男・女、 2（ ）歳男・女、 3（ ）歳男・女、
4（ ）歳男・女、 5（ ）歳男・女、 6（ ）歳男・女
2. 母子手帳に一通り目を通したことがありますか
（ある場合は以下の該当する番号に○印を付けて下さい）
1 受け取った時 2 子どもが産まれた時 3 その他（ ）
3. お子さんの母子手帳は現在も持っていますか
1 持参している 2 自宅に持っている 3 自宅以外に保管している
4 紛失した
（第2子以下については以下の欄に該当する番号を記入して下さい）
第2子（ ）、第3子（ ）、第4子（ ）、第5子（ ）
4. お子さんを診療所や病院に連れて行くときに母子手帳を持って行きますか
1 いつも持ってゆく 2 時々持ってゆく 3 ほとんど持って行かない
5. 医療機関を受診する以外に母子手帳をどんな時に開きますか
1 誕生日や入園式など 2 育児の参考にするとき 3（ ）歳以後開いていない
4 その他（ ）
6. 育児に母子手帳は役に立ちましたか
1 とても 2 少し 3 あまり 4 全然役に立たなかった
7. 具体的に何に役立ちましたか「○印を付け、（ ）内に具体例を記入して下さい」
1 妊娠出産時に（ ）
2 赤ちゃんの体重など成長の記録に関して（ ）
3 予防接種について（ ）
4 離乳食のことについて（ ）
5 その他に役に立ったと思われること（ ）
8. お使いになった母子手帳の育児についての具体的な指針は充分でしたか
1 とても 2 少し 3 あまり 4 ぜんぜん

9. 将来、母子手帳をお子さんにあげようと思いますか

- 1 中学生になったら 2 高校生になったら 3 成人したら 4 結婚したら
5 自分で持っていたい 6 あげない 7 わからない 7 その他 ()

10. 母子手帳の内容が変わるとしたらどのように変わることを望みますか (複数回答可)

- 1 ページ数を増やして詳しく説明して欲しい
2 ページ数を減らして薄くして欲しい
3 子育てについて具体的な情報が欲しい
4 病気やけがの応急手当を載せて欲しい
5 アトピーについての内容を載せて欲しい
6 予防接種の受け方を載せて欲しい
7 赤ちゃんに薬を与えるときの方法について載せて欲しい
8 授乳中の薬の使い方を載せて欲しい
9 父親のことを書く欄が欲しい
10 その他 ()

11. 上の10. の問い以外に自由記載欄として具体的にどこに欲しいですか

()

12. 離乳に関し開始、完了、離乳食の内容などにつき記載したいですか?

- 1 はい 2 いいえ

13. 手帳のサイズ (14.8cmx10.6cm) は全国でまちまちですが大きいほうが良いですか

- 1 はい 2 いいえ

14. 生後3ヶ月までの栄養についてお伺いします。ごきょうだいの場合は先ず第1子について記入して下さい

- 1 母乳 2 人工栄養 3 混合栄養

(第2子以下については以下の欄に該当する番号を記入して下さい)

- 第2子 ()、第3子 ()、第4子 ()、第5子 ()
第6子 ()

15. 現在は小学校入学まで記録することになっていますがもっと先まで記録し自分の心身の健康に配慮するようにしたほうが良いと思いますか。ご意見をお聞かせください

- 1 小学校卒業まで 2 中学校卒業まで 3 高校卒業まで 4 成人するまで
5 一生涯 6 このままでよい 7 その他 ()

生後間もない時期の育児について

16. 「お産の後、臍帯 (へそのお) の処置が終わったら、特別な理由が無い限り、直ぐに赤ちゃんをお腹の上に置いて乳首を含ませることが母子の両方に非常に大切である」この記載について

- 1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

17. 母子の両方にとって、お産の後、先ず始めに初乳以外のものを赤ちゃんに口から与えるべきでないこと
の大切さが知られておりますがこの記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
18. 「お産の後、可能な限り、母子は常に同室で赤ちゃんが母乳を欲しがるときはいつでも与えることが大
切である」ことの記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
19. お乳がよくできるように肉を控え、野菜、果物、鯉汁等の魚の汁物を充分にとり、睡眠や休養も充分にと
ることが大切であることを自分だけでなく家族の理解が得られるように記載すること
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
20. 「母乳には病気から守る免疫物質が含まれ栄養的に殆ど完全食品である」という記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
21. 「知識があれば90%以上に母乳育児ができる」との記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
22. 「授乳行為は母子の信頼関係を築くのに役立ち、授乳中は赤ちゃんの視線にお母さんが目を合わせるこ
とがコミュニケーションの発達に大切である」の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
23. 「テレビやビデオへ長時間接触（特に3歳まで）の危険性を警告する」ことについて
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
24. 「コミュニケーション能力、言葉の理解、記憶や行動などの発達にお母さんの赤ちゃんへの接し方、遊
び方の大切さ」の記載について
1 重要である 2 不要である 3 どちらともいえない
25. 「上の子が赤ちゃんがえりをして困った」など気軽な相談相手は誰ですか
1 父親 2 母親・姑 3 きょうだい 4 友人 5 小児科医 6 育児書
7 その他（)

3ヶ月前後から以降の育児について

26. 育児について感じていることで該当するものを選んでください（複数回答可）
1 楽しい 2 やりがいがある 3 不安 4 孤独 5 疲れる 6 責任重大
7 社会から取り残されたような気がする 8 母親の負担が大 9 つまらない
10 苦しい その他（)

27. ガラガラやおもちゃなど何でも口に持っていき「なめる」ときどうしますか

- 1 そのままにしておく 2 やめさせる 3 どちらとも云えない

28. 育児は子どもと生活をしているだけのことで特別なことではない簡単なことであることを知らせることが大切である

- 1 そう思う 2 思わない 3 どちらとも云えない 4 その他 ()

6ヶ月前後から以降について

29. 人見知り信頼している母親とそれ以外の人との識別能力を示す指標となる

- 1 そう思う 2 思わない 3 どちらとも云えない

30. 手当たり次第に触る時期があるのは手で感触を確かめるため発達欲求である

- 1 そう思う 2 思わない 3 どちらとも云えない

31. 乳幼児期の発達段階にあったおもちゃと遊び方に関する情報が必要ですか

- 1 そう思う 2 思わない 3 どちらとも云えない

32. 乳幼児期の絵本の読み聞かせに関する情報が必要ですか

- 1 そう思う 2 思わない 3 どちらとも云えない

33. 離乳食開始は何ヶ月以降が良いと思いますか

- 1 5ヶ月 2 6ヶ月 3 7ヶ月 4 ()ヶ月

34. 離乳食はバランスの取れた親の食事を軟らかくする等少し工夫すればよい

- 1 そう思う 2 思わない 3 どちらとも云えない

12ヶ月前後から以降について

35. 「母と子が一緒になって物や人を指差しが出来る」という記載の重要性について

- 1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

36. 発達段階に合わせた「しつけ」の情報について

- 1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

37. 早期教育が発育を歪めるという的確な情報と警告文の必要性について

- 1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

38. 子どもの友達、母親の友達がほしいですか

- 1 とても必要 2 いない 3 ほしいけど作れない

39. 「保育園や幼稚園へ早く行かせ子どもと離れたい、子どもに関わりたくない」という母の気持ちをもたらす子に対する悪影響の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

1歳半前後から以降について

40. 「外遊びによって子どもは心身ともに育つ」という重要な基本的情報の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
41. 「母と子が一緒に遊び込むと絆が深くなる」という情報の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
42. 「三つ子の魂百まで」という大切な言葉の意味を理解しておられますか
1 いる 2 いない 3 何をすればいいかわからない
43. わが子がかawaiiと思えない、うっとうしい、時々にくらしい、という気持ちの解決法の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
44. 母親自身が必要とする関心のある情報の内容について
1 しつけ 2 食事 3 習い事 4 接し方 5 遊び方 6 友達 7 教育
8 テレビ・ビデオ
45. テレビやビデオを3歳までは見せない方がよいが、見せている一日当たりの時間は
1 30分以内 2 1時間以内 3 2時間以内 4 それ以上 () 時間
46. わが子がかawaiiと思えない、うっとうしい、時々にくらしい、という気持ちの解決法の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

2歳前後から以降について

47. 自我の芽生えで「イヤッ」と言い始めた時「出来るよね」「わかるよね」と言って「目を見つめて信頼する態度」で対応すること
1 最も大切である 2 賛成できない 3 どちらともいえない
48. セルフコントロール（自己抑制）の気持ちを育てる方法の記載について
1 大変必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
49. しつけとして子どもをたたくことの子への影響についての情報の記載について
1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない
50. 子どもに対する上手な接し方や遊ばせ方の記載について

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

5 1. 他人の子どもをたたく、噛み付く、突き倒す、ひっかく、砂をかけるなどの行動に対する対応の仕方の記載について

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない 4 その他 ()

5 2. 自分の子どもの行動の動機や理由について大体はつかめますか

1 つかめる 2 つかめない 3 つかみたいけどわからない

就学後について

5 3. 子どもの成長発達に関する情報の記載は必要ですか

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

5 4. 罹りやすい病気や薬の飲ませ方などの情報の記載は必要ですか

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

医学的なことについて

5 5. 胎児のエコー（超音波）などの写真を貼るスペースが欲しいですか

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

5 6. 分娩時と新生児期のカルテの記載のコピーが記念に欲しいですか

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

5 7. 子どもの病気（病名、入院した期日、主治医名等）を母子手帳に記入していますか

1 はい 2 いいえ

5 8. 歯の記載についてもっとスペースが欲しいですか

1 はい 2 いいえ

5 9. 母子手帳の予防接種の記録はお子さんが留学するときなどに証明書を作成するのに必要な場合があることをご存知でしたか？

1 知っていた 2 知らなかった

6 0. 病院などへの質問欄のどの余白（スペース）がもっと欲しいですか

1 妊娠時 2 乳児 3 幼児 4 予防接種 () 5 不要

6 1. 母親のプライバシーの面から子供の記載のみにすべきという意見について

1 現状通り分けない 2 母と子の2冊に分ける 3 その他 ()

6 2. 母子手帳交付時に活用方法についての説明を行政側か医療関係者が行なう体制を整えることについて

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない 4 その他 ()

63. 以上の設問は母子手帳の目次の総ての24項目について網羅して作成してありませんが、必要な項目と不要な項目について全体としてのご意見をお教え下さい。
また、このアンケートに関連したことについてご自由に記載してください

お差支えなければ氏名とご連絡方法を記載してください

()

この度はご多忙の所、アンケートにお答え頂きありがとうございました。楽しく幸せな育児が出来、子ども達が逞しく健やかに成長・発達し社会性が育まれるように、「母と子の本当の幸のためになる母子手帳」を目指して、集計結果を研究報告書その他に発表し、その改善の資料として活用させていただきます。

「母子健康手帳（以下母子手帳と略す）」に関する医療関係者へのアンケート

該当する番号に○印を付けて下さい。回答が複数ある場合は該当する数だけ付けて下さい

記入月日 _____ 年 月 日

一般的な事項

1. 職種をお書きください

- 1 産科医 2 小児科医 3 助産師 4 保健師 5 看護師 6 歯科医 7 薬剤師
8 保育士 9 心理士 10 その他 (_____)

2. 母子手帳について改善を希望しますか

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい

3. 乳児健診などの健診の時に有用ですか

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい

4. お子さんを診療所や病院で診察するときなどに母子手帳をみますか

- 1 いつも見る 2 時々見る 3 ほとんど見ない 4 年齢による

5. 子供の診察などに母子手帳は役に立ちましたか

- 1 とても 2 少し 3 あまり役立たなかった 4 全然役に立たなかった

6. 項目5. で役立った（1, 2）と答えられた方は役立った具体的な事項について

- 1 予防注射 2 発育具合 3 出産の様子 4 妊娠の様子
5 母親の妊娠時の様子がわかる
6 その他 (_____)

7. 将来母親が母子手帳をお子さんにあげようとしたらいつが良いと思いますか？

- 1 中学生になったら 2 高校生になったら 3 成人したら
4 結婚したら 5 母親が持っていれば良い 6 わからない
7 あげない 8 その他 (_____)

8. 母子手帳を使用する際、記載内容に不足する点がありましたら具体的にお書きください

- 1 特にない 2 ある (_____)

9. 3～5ヵ月、6～8ヶ月、9～11ヵ月、1才、1才半、2才、3才、4才、5才、6才における保護者、医療者の記載項目について追加、削除について

- 1 現状でよい
2 追加、削除あり（具体的に； _____)

10. 聴力スクリーニングの項目を加えることについて

- 1 必要 2 不要 3 どちらでもよい

- 1 1. 手帳のサイズ（14.8cm×10.6cm）は現在は全国でまちまちですが大きいほうが良いですか
1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい
- 1 2. 母子手帳は母親のプライバシーの面から子供の記載のみにすべきという意見がありますが、どう思われますか？
1 現状通り分けない 2 母と子の2冊に分ける
- 1 3. 母子手帳という名の中に父親の存在がないために名前の変更を希望される方がいます。ご意見を聞かせてください
1 現状でよい
2 名前の変更（具体的に
- 1 4. 現在は小学校入学まで記録することになっていますが、もっと先まで記録し自分の心身の健康に配慮するようにしたほうが良いと思いますか。ご意見をお聞かせ下さい
1 小学校卒業まで 2 中学校卒業まで 3 高校卒業まで 4 成人するまで
5 一生涯 6 今のままでよい 7 その他（ ）

内容の変更について

- 1 5. 母子手帳の内容が変わるとしたらどのように変わることを望みますか？（複数回答可）
1 ページ数を増やして詳しく説明して欲しい
2 ページ数を減らして薄くして欲しい
3 子育てについての地域社会の具体的情報（ ）
4 病気やけがの応急手当の具体的情報（ ）
5 アトピーについての具体的情報（ ）
6 予防接種の受け方の具体的情報（ ）
7 赤ちゃんに水薬や粉薬を与えるときの具体的情報（ ）
8 授乳中の薬の使い方の具体的情報（ ）
9 父親のことを書く場合の具体的情報（ ）
10 エコーなどの写真を貼る場合の具体的情報（ ）
- 1 6. 自由記載欄がもっと必要とお考えの方は具体的に何処に必要かを記載して下さい
（ ）
- 1 7. 病院などへの質問欄がもっと必要ですか
1 はい 具体的にどのスペースに欲しいですか
1 妊娠時 2 新生児期 3 乳児期 4 予防接種
5 その他（ ）
2 いいえ
- 1 8. 歯の記載についてもっとスペースが欲しいですか
1 はい 2 いいえ

妊娠と分娩の関連事項

19. 妊娠から生後1ヵ月までの記載の欄が足りないと思われる項目に○印を付けて下さい

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1 妊娠中の所見欄 | 2 妊娠中の指導を書く欄 | 3 妊娠中の母体の状況 |
| 4 母親の意見を書く欄 | 5 エコー等の写真を貼る欄 | 6 出産時の所見を書く欄 |
| 7 新生児の様子を書く欄 | 8 一ヶ月までの児の状況 | 9 重症新生児の記載欄 |

20. 妊娠分娩情報は

- 1) 現状でよい
- 2) 追加項目が必要
 - 1) 母体の予防接種歴およびウイルス既往歴；現在はB型肝炎、梅毒のみですが、
 - 1 具体的に追加疾患をあげてください ()
 - 2 既往歴として（麻疹・水痘・風疹の抗体価、その他 ()
 - 3 服用薬名
 - 4 その他：
 - 3) 削除しても良いと思われる項目：
 - 4) 出産時の児の状態における特別な所見、処置の欄について
 - 1 現状でよい
 - 2 変更する、追加する（具体的な内容）： ()

21. 妊娠中の煙草やアルコールの害について具体的な危険性の説明や禁煙外来などの受診を勧める項目

- 1 必要 2 不要 3 その他

育児に関する事項

22. 国連の「児童の権利に関する条約」の中に「赤ちゃんが母乳を飲む権利」があることを母親に知らせるべきだと思いますか

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい

23. 母乳育児に関する知識と適切な援助があれば90%以上の母親が人工乳を足すことなく母乳だけで赤ちゃんを育てられるという知見があることを母親に知らせるべきだと思いますか

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい

24. WHO（2002年の決議）やアメリカ小児科学会（1997年の勧告）で、生後6ヶ月間は母乳だけで育てられるべきで、果汁などの離乳準備もその他の水分も一切必要ないと推奨していることを母親に知らせるべきだと思いますか

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい

25. 「母乳育児成功のための10か条」（WHO/ユニセフ）を記載すべきだと思いますか

- 1 必要なし 2 掲載して欲しい 3 どちらともいえない

26. 「世界中の赤ちゃんが2年かそれ以上母乳で育てられるべき」を母親に知らせるべきだと思いますか

- 1 はい 2 いいえ 3 どちらでもよい